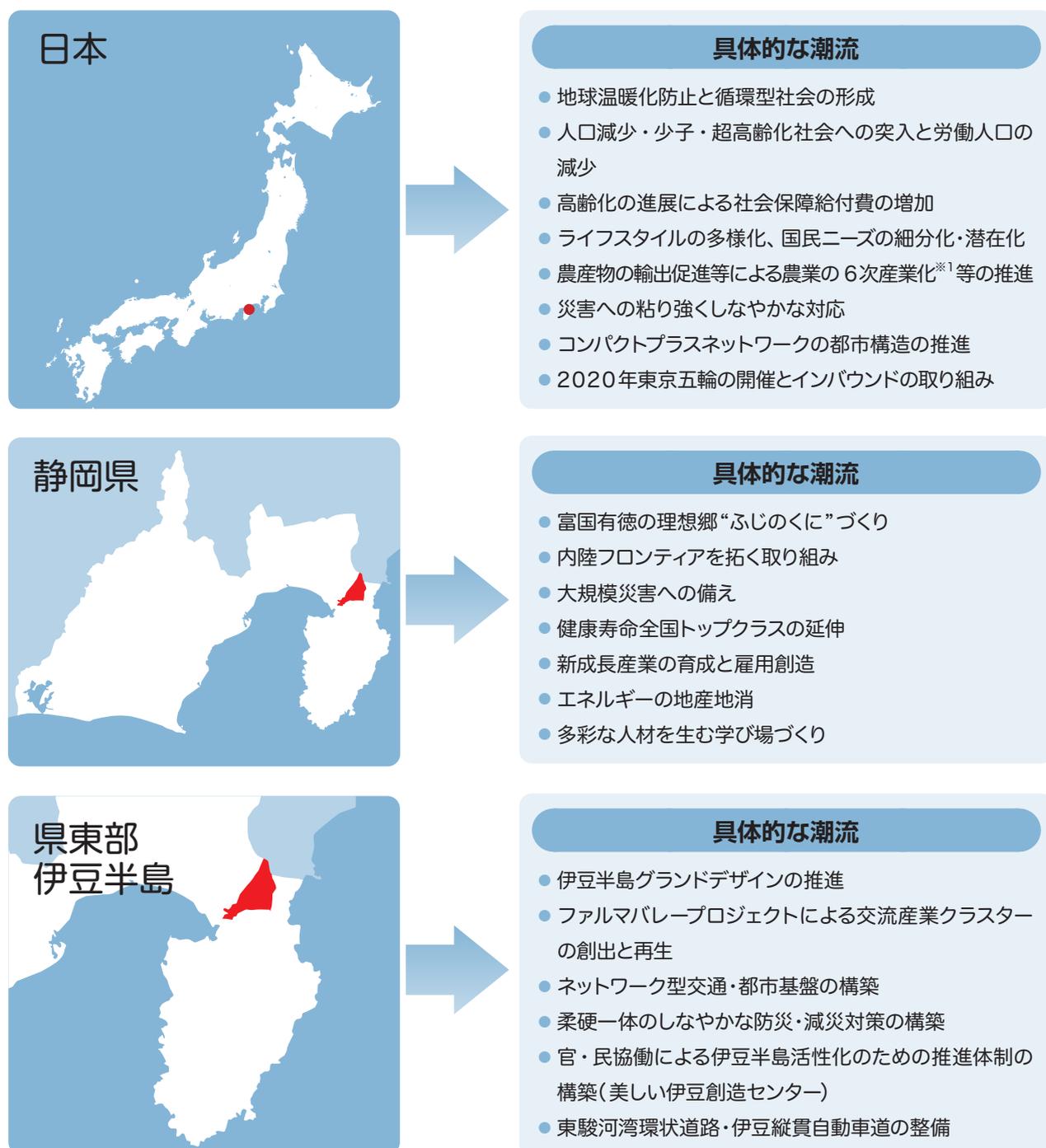


第 2 章

町を取り巻く潮流と課題

2-1 町を取り巻く社会的な潮流

現在、国・静岡県・県東部および伊豆半島を取り巻く社会的な潮流を踏まえて、今後、10年間の町の姿を思い浮かべながら町で取り組むべき課題を整理します。



2-2 時代の潮流に応えるまちづくりの課題

町を取り巻く社会的な潮流を踏まえて、今後、10年間におけるまちづくりの課題を整理し、「環境」「健康」「交流」の観点からまとめました。

2-2-1 環境

環境・防災への対応

地球温暖化の影響により頻発化するゲリラ豪雨等の異常気象による水害や土砂災害、また大規模地震災害に対する備えが重要な課題となっています。

水害や土砂災害、大規模地震から町民を守るため、治山・治水対策や耐震対策を進めるとともに、防災機能を兼ね備えた運動公園、道の駅・川の駅を活用した広域的な防災体制の構築、地域と連携した自助・共助の防災意識を醸成していく必要があります。

併せて、生活インフラの効率的な機能維持を図るため、公共施設の耐震化や長寿命化対策を進めていく必要があります。

社会基盤への対応

少子・超高齢化社会の到来による人口減少が進むなかで、高齢者や子育て世代が快適に生活できる環境を実現し、持続可能な都市経営を可能とすることが重要な課題となっています。

元々コンパクトな都市構造の地形を活用し、コンパクトプラスネットワーク^{※2}の考えに基づき、中山間地域と市街地を結ぶ生活交通の確保が必要となっています。

また、厳しい財政状況を考慮し社会基盤や公共施設の維持管理も、コンパクトで効率的な都市経営の必要があります。



感染対策を施した避難所訓練



防災機能を備えた運動公園管理棟
(ソーラーパネル)

※1 農業の6次産業化：農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進すること

※2 コンパクトプラスネットワーク：医療・福祉・子育て支援・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に集約すること（コンパクトシティ）に加え、住民がこれらの日常生活に必要なサービスを身近に享受できるようにするために拠点へのアクセスや拠点間のアクセスを確保（ネットワーク）するなど公共交通の維持・充実について一体的に検討する考え方

2-2-2 健康

健康・福祉への対応

高齢化やライフスタイルの変化に伴う生活習慣病の増加等により、医療への需要は大幅に増えており、健康づくり・疾病の予防や早期発見・重症化予防、また介護サービス等の高齢者福祉が重要な課題となっています。

子どもや高齢者、障がい者が元気に生活できる環境づくりや町民の健康づくりなどを推進し、町民が安心して住み続けることができるよう、医療・福祉・介護体制を充実させる必要があります。

教育への対応

生涯学習社会の形成に向け、幼児から大人までの各世代に応じて、多様化、困難化する教育・学習環境への対応が重要な課題となっています。

「次世代の学校・地域の創生」を目指し、幼児および義務教育の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進し、豊かな人間性の育成を進めていく必要があります。

また、町民一人ひとりの生涯にわたる学びを支える環境づくりとして、幼児から青少年までの健全育成活動を充実させ、家庭や地域が一体となった子どもたちを育む環境づくり、文化財の保護・活用と読書・スポーツを楽しむ環境づくりを進めていく必要があります。

併せて、次世代の郷土をつくる人材の育成と、町にある様々な文化や遺産を後世に継承し、町に誇りと愛着心を持つ意識を醸成することも必要です。



ノルディックウォーキング



ICTを活用した授業

2-2-3 交流

産業への対応

超高齢化社会に伴う医療および健康分野の需要拡大、都市化に伴うインフラ整備に対する需要の拡大、2020年東京五輪等、町内の各種産業の潜在的な技術やイノベーションの強みを有効に活用していくことが課題となっています。

観光資源の掘り起こしや、地域ブランドを活かした情報発信等により交流人口を増加させ、地域活性化を図る必要があります。

また、東駿河湾環状道路の開通により、人や物の流れが大きく変化したことから、この効果を活かした工業、商業、物流等を含めた積極的な産業誘致を推進し、雇用の創出を図る必要があります。

併せて、豊かな営農環境と道の駅を活かした農業振興により生産性の向上を図るとともに観光事業と連携した各種産業を拡大していく必要があります。

交流・にぎわいへの対応

少子・超高齢化に伴う人口減少が進むなか、厳しい財政運営を余儀なくされており、それに伴い高齢者と女性の社会進出による活力ある社会づくりが課題となっています。

地域のコミュニティによる交流を推進することにより、地域の課題への取り組みを進め、高齢者がいつまでも健康で活躍でき、女性の社会進出を促進するため安心して生活できる環境整備を図る必要があります。

また、交流人口の拡大や移住・定住人口の増加を目指し、町民・各種団体・行政が連携した取り組みを推進する必要があります。



函南ブランド認定証の授与



かなみ猫おどり

2-3 SWOT※¹分析による戦略分析

総合計画で示す取り組みや重点的に取り組むべき内容は、選定までの過程が客観的で透明性があることが重要です。そこで、町の特長(内部要因)を強み・弱み、社会経済環境の変化(外部要因)を機会・脅威の категорияで分類し、それぞれの関係性から分析を行うSWOT分析により町の進むべき内容を戦略化します。

第六次函南町総合計画

課題の見える化

基本構想で取り組む4つの戦略

強み × 機会 = 成長戦略

弱み × 機会 = 克服戦略1

強み × 脅威 = 克服戦略2

弱み × 脅威 = 危機回避戦略

函南町の特長 (内部要因)

● 強み Strengths

- 豊かな営農環境がある
- 美しい自然景観がある
- 文化遺産がある仏の里美術館
- 東駿河湾環状道路の完成によるアクセス向上
- 子育て支援に力を入れ、ひとり親家庭に優しい
- コンパクトな都市構造
- 酪農王国オラッチェ・十国峠等の観光資源
- 丹那牛乳等の地元名産品 等

▲ 弱み Weaknesses

- 就業先が少ない
- 函南駅周辺の活性化不足
- 市街地における公園不足
- 山間地に点在する集落
- 農業の担い手不足
- 公共交通の不足
- 水害が多い
- 町のプロモーションが弱い
- 幹線道路沿道の土地が未活用
- 大型商業施設と娯楽施設の不足
- 老朽化した公共施設 等

函南町を取り巻く社会経済環境 (外部要因)

★ 機会 Opportunities

- 大場・函南IC、函南塚本IC設置
- 伊豆半島のジオパーク登録
- 農業の6次産業化
- 2020年東京五輪の伊豆地域での開催
- 道の駅・川の駅の整備
- 内陸フロンティアを拓く取り組み
- ファルマバレープロジェクト
- 公共交通の実証実験(畑毛線他)
- 伊豆半島グランドデザインの取り組み 等

× 脅威 Threats

- 地球環境問題の深刻化
- 東海地震、南海トラフ地震などの大規模災害
- 東京一極集中など若年層の流出
- 税収減少、厳しい財政運営
- 社会保障や維持管理費の増大
- 商店や地域活動の担い手の高齢化・後継者不足
- 少子化の進行・ひとり親家庭の増加
- 高齢者の加速度的な増加 等

成長戦略の例

●★強みで機会を活かす

- 人に優しいまち
 - × 良好な交通アクセス
 - = 移住・定住の促進
- 豊かな営農環境
 - × 道の駅の整備
 - = 農業の振興
- 豊富な地域資源
 - × 伊豆半島との連携
 - = 交流人口の拡大

克服戦略1の例

▲★機会に乗じて弱みを克服

- 就業先が少ない
 - × 良好な交通アクセス
 - = 雇用機会の増加
- 水害
 - × 内陸フロンティア
 - = 災害に強いまちづくり
- 農業の担い手不足
 - × 道の駅の整備
 - = 農業の6次産業化の推進

克服戦略2の例

●×強みで脅威を克服

- 人に優しいまち
 - × 高齢者やひとり親家庭の増加
 - = 地域コミュニティの醸成・助け合いの社会づくり
- コンパクトな都市構造
 - × 税収減少
 - = 効率的な都市経営

危機回避戦略の例

▲×弱みを克服して脅威を回避

- 大型商業施設の不足
 - × 商業衰退
 - = 店舗誘致によるにぎわい創出
- 老朽化した公共施設
 - × 厳しい財政運営
 - = 集中投資による拠点の形成

※1 SWOT分析：分析対象を取り巻く外部環境や内部環境を強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の4つのカテゴリーで要因分析し、環境変化に対応した経営資源等の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つです。

SWOT分析の結果をもとに町が進むべき方向性を戦略化しました。

成長戦略の例

●強み	×	★機会	⇒	強みで機会を活かす
人に優しいまち	×	良好な交通アクセス	=	移住・定住の促進
豊かな営農環境	×	道の駅の整備	=	農業の振興
豊富な地域資源	×	伊豆半島との連携	=	交流人口の拡大

克服戦略1の例

▲弱み	×	★機会	⇒	機会に乗じて弱みを克服する
就業先が少ない	×	良好な交通アクセス	=	雇用機会の増加
水害	×	内陸フロンティア	=	災害に強いまちづくり
農業の担い手不足	×	道の駅の整備	=	農業の6次産業化の推進

克服戦略2の例

●強み	×	×脅威	⇒	強みで脅威を克服する
人に優しいまち	×	高齢者やひとり親家庭の増加	=	地域コミュニティの醸成・ 助け合いの社会づくり
コンパクトな都市構造	×	税収減少	=	効率的な都市経営

危機回避戦略の例

▲弱み	×	×脅威	⇒	弱みを克服して脅威を回避する
大型商業施設の不足	×	商業衰退	=	店舗誘致によるにぎわい創出
老朽化した公共施設	×	厳しい財政運営	=	集中投資による拠点の形成